

8月の果実の見通し

令和4年7月31日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
日本なし類	千葉 茨城 福岡	6626	90%	7219	507	高い	417	1	0.0%	昨年は全国的に開花が平年より早く前進出荷であったが、本年産は、昨年より開花が遅く平年並みの出荷が予想される。関東産地は5月下旬、6月上旬の雹の被害も一部産地では影響があり秀品率低下も予想される。8月上旬に一部産地がピーク時が重なりあうも旧盆需要から引き合いは強く価格は昨年同様高値が予想される。
もも類	福島 山梨	3887	95%	4834	689	並み	581	724	18.6%	山梨産の出荷ペースは5~7日前進しており、7月下旬からは「川中島白桃」の販売が始まる。早場産地では8月5日頃を目途に切り上がる見込み。福島・長野産は「あかつき」から「なつっこ」、新潟産も「あかつき」の販売となるが天候次第で「なつっこ」になる。山形においても生育は早まっている。8月は小玉で出荷量は少ない。
すもも	山梨 長野 山形 など	517	95%	563*	665	並み	623*	117	22.6%	山梨産「ソルダム」は7月末に終了となる見込み。7月下旬は「貴陽」、8月上旬に「太陽」がピーク。生育は良好とのことだが、6月末の高温障害でヤケ果や口スガ散見され数量減の可能性がある。長野産は上旬「サマーエンジェル」、中旬に「貴陽」となり下旬から「太陽」。山形産も下旬からとなる。
りんご類	長野 山形 など	2561	95%	2262	359	高い	410	247	9.6%	2022年産の新りんごは8月月初に長野産「夏あかり」、山梨産「サンつがる」を皮切りに旧盆前に長野産「シナノリップ」、旧盆後は長野・山形産「サンつがる」、岩手産「紅口マン」と順次販売開始となる。新りんご総体の作柄は、概ね平年作と順調。地域によっては高温による日焼け果の発生が予想される。現状、青森産の貯蔵品は終盤戦となっており、旧盆前まではりんご類総体に基調高で推移するも、8月下旬には新りんごが出荷本格化し、相場は弱含みの展開が予想される。
ぶどう類	山梨 長野 など	3342	95%	3211	1496	並み	1261	706	21.1%	山梨産露地物「デラウェア」は7月下旬からスタートし8月上旬にピークとなり、山形産は遅い加温から8月は前年より多くなる。山梨産「巨峰」は生育が進んだことで前年同様に早くから出荷増量となるものの高温障害が懸念される。岡山産「ピオーネ」は上中旬に加温・無加温ものが出荷となるが気温が高いため着色不良が気になる。「シャインマスカット」は各産地増量となり盆前後には多くなりそう。

8月の果実の見通し

令和4年7月31日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
メロン類	北海道 静岡 など	2230	95%	2141	484	並み	462	301	13.5%	「アールスメロン」は8月上旬に1回目のピークを迎え前年並みの入荷見込み。旧盆後の出荷ペースは落ち着き、品質的には上位等級が少ない。下旬にかけて下級品が若干増える。北海道産は「らいでんメロン」が主力。6月の好天に恵まれ「ルピアレッド」は前進気味での出荷。その影響からピークが旧盆前となり、早まることが予想される。「ティアラレッド」は平年と変わりなく旧盆前後となる。山形産は7月下旬から「アンデス」「クインシー」は減少し8月10日ころまでの販売となる。青森産は8月4日から10日頃がピークとなる。
すいか (大玉)	山形 長野 など	6682	90%	7126*	229	高い	210*	3462	51.8%	本年度の梅雨明けが6月末と異例の速さであったため、前段産地の荷動きも良い。山形産の出遅れはあるが、長野県産の順調な出荷で総体的には昨年度並みの販売数量と予想。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)

*4ヶ年平均